

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 30 年度

事業所番号	2775004399		
法人名	株式会社 やよいづらねっと		
事業所名	グループホームやよい		
所在地	大阪府東大阪市大蓮北3-5-5		
自己評価作成日	平成 30年 9月 12日	評価結果市町村受理日	平成 30年 10月 30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.nhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kan=true&lijvsvocCd=2775004399-004PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 30年 9月 21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームやよいは商店街の近くにありますが、スーパーも近くにありますが、地域との馴染みの関係を大切にしています。思いやりのある利用者本位の介護に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

長年、自治会副会長として地元の地域社会に貢献してきた代表が開設したグループホームです。住宅街の中であり、すぐ近くには昔ながらの商店街があります。「住みなれた地域での生活、通いなれた商店街での買い物とその人らしい暮らしの実現をめざして『利用者本位』『尊厳の確保』の寄り添う介護をめざします」を理念に掲げ、利用者一人ひとりのその人らしい暮らしを支えています。商店街への買い物や散歩で、顔なじみの地域住民も多く、地域に根付いたホーム運営を行っています。管理者でもある代表は、「自分自身も年齢を重ね、利用者の気持ちがわかる」との利用者目線を日常のケアに活かしています。ホームでの看取りの実績も多く、職員は看取りの経験の中で「看取りは特別なことではなく、日常の介護の延長線上である」と学び、日常のケアに活かしています。3食手作りの食事もホームの自慢の一つです。ホーム建て替えの計画があり、理想の住まい作りを、管理者以下利用者・職員が楽しみにしています。現場を知っている管理者やチームワークのよい職員が支える利用者の暮らしは穏やかで、和やかな雰囲気グループホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「住みなれた地域での生活、通いながれた商店街での買い物とその人らしい暮らしの実現をめざして『利用者本位』『尊厳の確保』の寄り添う介護をめざします」を理念に掲げ、その人らしく暮らせる生活を支援しています。毎月の定例会議や研修の場を通じて、職員は理念を共有しています。	玄関等に、理念の掲示を検討されてはいかがでしょうか。職員が日常的に理念を確認したり、外部からの訪問者に理念を理解してもらうことに繋がることを期待します。また、年度目標を職員で作り、理念のさらなる実現も検討されてはいかがでしょうか。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	管理者が第9自治会の副会長をしていて、地域の一人として日常的に交流している。	掲げている理念にあるように、職員は、利用者と一緒に地域の商店街に出かけ、地域とつながり暮らし続けられる支援を心がけています。また、代表は長く地元自治会の役員として活動し、地域との信頼関係ができています。そのため、利用者と顔なじみの地域住民も多く、万一利用者が商店街に一人で出かけるようなことがあってもすぐに連絡が入るような関係が生まれています。認知症カフェの開催も計画し、地域との交流をより積極的に取り組んでいく考えです。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	通所型つどいサービスを始めている。落ち着けば、認知症カフェを始めたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員、自治会会長、利用者の家族等に現状の報告、話し合いを行い、家族の思いを、サービス向上に反映している。	自治会長、婦人部長、民生委員、地域包括支援センター職員、利用者の家族等の出席で2ヶ月に1回開催しています。会議では主に、ホームの状況、行事の内容、職員研修の内容等を報告、説明し、参加者から評価や助言を得て、ホームの運営に活かしています。高齢者虐待防止や感染症対策等のテーマで参加者と話し合いました。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から、あまり連絡が取れていない。今後は事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝えながら、協力関係を築きたい。	解らないことや困ったことがあれば、市の担当者と相談していきます。外部評価結果や事故報告は提出する体制があります。運営推進会議を通じて地域包括支援センターとは密な関係ができています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>職員研修を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束廃止の指針を作成し、高齢者虐待防止の研修も行い、利用者の尊厳を守るケアの確認を行っています。「身体拘束ゼロ宣言」を掲げ、玄関の見やすい場所に掲示しています。玄関扉は内鍵式で、エレベーターも自由に乗り降りできます。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>管理者と職員は、高齢者虐待防止関連法についての研修会など学ぶ機会を持ち防止に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について、集団指導時の資料など参考にし、個々の必要性を関係者と話し合っている。が現在のところ活用してる人はいない。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の締結、解約の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解、納得を図っている。改定等の際も同様です。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会 意見箱や運営推進会議等を活用し運営に反映させている。</p>	<p>家族の面会時には、利用者の様子を報告し、その都度、意見や要望を聞いています。気軽に何でも言ってもらう雰囲気作りを大切にし、家族からの意見をサービス改善に活かしています。家族がボランティアで作ってくれた、季節感のある作品が玄関やフロアに掲示され、利用者に喜んでもらっています。</p>	<p>利用者の暮らしぶりがわかる写真入りのホームだよりの発行など、検討されてはいかがでしょうか。</p>
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>少人数で運営しているので、代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案は機会あるごとに、話し合い、反映させている。</p>	<p>毎月1回の職員会議で意見を出し合っています。日常的にも意見が言いやすい雰囲気づくりを大切にしています。管理者は、職員の自主性・主体性を尊重しています。頑張りを認めてもらう職場環境は、職員の士気を高めています。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>管理者が職員個々の努力、実績、勤務状況を把握しています。給与水準、労働時間など、各自の希望を聞き入れ、楽しく働けるよう職場環境、条件の整備に努めています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握してる。 少人数で運営しているので、なかなか難しいが、研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めていきたい。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同業者との交流はあまりできていません。今後は研修会、勉強会などの活動を通じてサービスの質を向上させていきたい。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めていきたい。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている、</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている 本人と家族の傾聴につとめている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いていきたい、		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切に、共に本人を支えていく関係を築きたい。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めていきたい。	利用者や職員と地域との関わりが深く、馴染みの人や関係継続の支援は自然にできています。ホーム近くにある古くからの商店街での買い物、馴染みの理・美容院や馴染みの喫茶店に行ったりすることを日常的に支援しています。友達が訪問したり、墓参りに行く利用者もいます。ホーム名の「弥生(やよい)」には、地名の「弥刀(みと)で生きる」という思いが込められています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の個性を把握し、ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めたい。		
Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	注意深く、傾聴しながら、本人本位の暮らし方が、できるように検討している。	利用者一人ひとりへの日常的な支援やコミュニケーションの中で、その人の気持ちを察してケアに活かしています。特に散歩の時間は、利用者の思いや意向を知る大切な機会と捉えています。関わりの中での気づきや発見は、口頭で職員間に伝え、共有しています。	日常の関わりの中での気づきや発見は、今後記録に残し、職員間で共有し、よりその人らしい暮らしの支援に活かしていかれることを期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者と介護者とは、馴染みの関係を築き、生活歴、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成して行くように努めている。	入居時、利用者や家族の意見・要望を基にカンファレンスを行い、介護計画を作成しています。6ヶ月毎に見直しを行い、状態の変化があるときは随時見直しを行っています。モニタリングは毎月実施しています。変更した介護計画は事務所で職員が確認できるようになっています。また、計画作成担当者が職員へ個別に口頭で説明しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別介護日誌の記録を生かして職員間で情報を共有し、介護計画の見直しに活かせるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援していきたい。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望に応じて、かかりつけの医療機関での受診が可能です。診療科目によっては、入居前のかかりつけ医受診のために通院介助を行っています。ホームでは協力医療機関から月2回、往診してもらっています。また、職員として配置されている看護師が週2回、利用者の健康管理を行っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えてかかりつけ医、その他関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えてかかりつけ医、その他関係者との関係づくりを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、かかりつけ医と共に、支援にとりくんでいる。</p>	<p>重度化や終末期の在り方については入居時に本人や家族と話し合い、方針を共有しています。その上で重度化した場合も、かかりつけ医や看護師と連携し、改めて意向を確かめた上で対応しています。ホームでは終末期を特別なものとせず「日常の介護の延長線上に看取りがある」と捉え、管理者やベテラン職員のリードで実績を重ねています。ホームの考え方は若い職員にも浸透しており、これまでの間に10件の看取り事例があります。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防署の承認のもとに、年2回の自主災害避難訓練を実施しています。通報・消火・避難訓練実施マニュアルを作成し、読み合わせも行っています。緊急避難時には、近隣の商店街との協力体制を構築しています。非常災害時の水や食料品も準備しています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、ホームの理念に基づいて、『利用者本位』『尊厳の保持』の寄り添う介護を実践しています。年間計画に従い、プライバシー保護や人権についての研修も行っています。管理者は、日常の中での利用者の尊厳に配慮したケアについて、排泄や入浴介助時のプライバシーへの配慮等、職員に具体的に伝えています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけ満足できるように務める		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとり一人の個性を大切にして、その人らしく、過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみができるように支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしていけるように努めたい	食事の美味しさもホームの自慢のひとつで、調理専任の職員による3食手作りです。献立は利用者の希望も聞きながら立て、近所のスーパーで食材を購入しています。利用者が買い物に同行することもあります。ご飯の炊ける匂いや食事の準備の音がフロアに聞こえ、利用者は食事の時間を心待ちにしています。利用者が食べやすい食事形態への工夫も行っています。介助が必要な利用者には、声かけしながら、利用者のペースに合わせた介助を行っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口の中の汚れや臭いが生じないよう、朝、夕、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	基本はトイレでの排泄です。利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、さりげなく声かけ、誘導を行い、自立に向けた支援を行っています。入居後、排泄パターンを把握してトイレに誘導することによって、トイレでの排泄が可能になった事例ケースがあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回と、必要に応じて入浴支援を行っている	浴室は一般家庭用の浴槽ですが、シャワーチェアなども使って職員が介助し、利用者の全員が原則週2回入浴しています。時には趣を変えてユズ湯や入浴剤を使うこともあります。入浴を好まない利用者にはトイレのついでに誘うなど、声かけや入るタイミングを工夫しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外に出かけられるよう支援に努めている。 家族と協力しながら出かけられるように支援している	重度化と共に利用者の外出が難しくなっていますが、家族等の協力を得て近くの商店街へ買い物や理・美容、喫茶等に出かけるよう支援しています。春や秋には徒歩 7～8 分の圏内にある緑地公園へ花見に出かけています。ホームでは外出支援の重要性を認識し、近く開設予定の認知症カフェや、隣接地で移設計画中の庭付きホームに期待をかけています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの能力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している		
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関を入ると壁面に並ぶ招き猫や人形に加えて、お月見や赤トンボなど季節をテーマに利用者の家族が描いたほのぼのとした絵が出迎えてくれます。足元には腰かけて靴が履けるような木製の長椅子が置かれています。1階の食堂兼居間には利用者や職員と一緒に座れる特大テーブルのほか、6畳ほどのフロアの一面にコの字型の大きなコーナーソファが配置されています。利用者はすぐ横の台所から漂ってくるおいしそうな匂いや野菜を刻む音に包まれながら、テレビを見たりソファでゴロンと横になったりして日中を過ごしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、電動式や木製など利用者の身体状態に合わせたベッドとカーテンが備えられています。利用者は収納家具や衣装ケースを持ち込み、ぬいぐるみや人形、家族写真や配偶者の遺影などを飾っています。阪神タイガースグッズを飾っていた利用者もいます。ホームでは退去した利用者が残っていた収納家具も有効活用しています。カレンダーや風景写真等を貼り、季節を感じてもらえる工夫も考えています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、出きるだけ自立した生活が送れるように工夫している		